



つうしん リーベル通信



発行責任者：NPO法人 八女地区障害者相談支援センターリーベル
住所：八女市本町17-2 電話：0943-22-2610 FAX：0943-22-2664
E-mail：liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL：http://liber-yame.net

障害者虐待通報ホットライン
☎090-2580-0294

いつでもお電話ください！

～ごあいさつ～

八女市健康福祉部長
兼 福祉事務所長 白坂正彦



八女市は、「心豊かに、共に支え合い、安心して健やかに暮らせる、優しいまち八女」を基本理念としながら、①相談しやすい雰囲気づくり②連携した支援ができる体制づくり③絆を深め孤立化を防ぐ地域づくり④社会参加の意識づくりの目標を具現化する取り組みに努めています。

なかでも、平成31年3月に策定しました「第3期八女市障害者基本計画（平成31年度～令和10年度）」では、本市における障がい者のための施策に関する基本的な事項を定め、すべての障がい者が安心して自立した生活を送るための総合的な計画として、自立支援事業・相談事業の充実・ふれあいのあるまちづくり事業を柱に施策テーマ毎に支援制度の充実や地域交流の推進等に努めることに致しました。

なお計画に基づく事業実施においては、八女市身体障害者福祉協会をはじめ、障害者基幹相談支援センター（リーベル）、社会福祉法人・医療法人及びボランティア団体などの関係機関と連携するとともに、八女地区障害者等自立支援協議会において、事業の推進状況を含めた進行管理に努め、「オール八女」として具現化してまいります。また、平成28年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」第17条の規定に基づき、差別の解消を効果的に推進するためのネットワークとして、『八女市障害者差別解消支援地域協議会』を他の市町村に先駆けて設置し、障がい者差別に関する相談や地域における障がい者差別を解消するための取組に関する啓発について取り組むことになっているとところです。

この様な状況の中、現在の福祉制度では支援が困難なケースも多くあり、より多様な自立支援や社会参加へのきっかけづくり及び居場所の確保が求められています。

したがって、総合的な支援を可能とする相談体制の充実と併せて、八女の地域性を生かした農業と福祉が融合した農福連携事業に取り組み、社会参加や就労支援に繋がるよう努めてまいります。

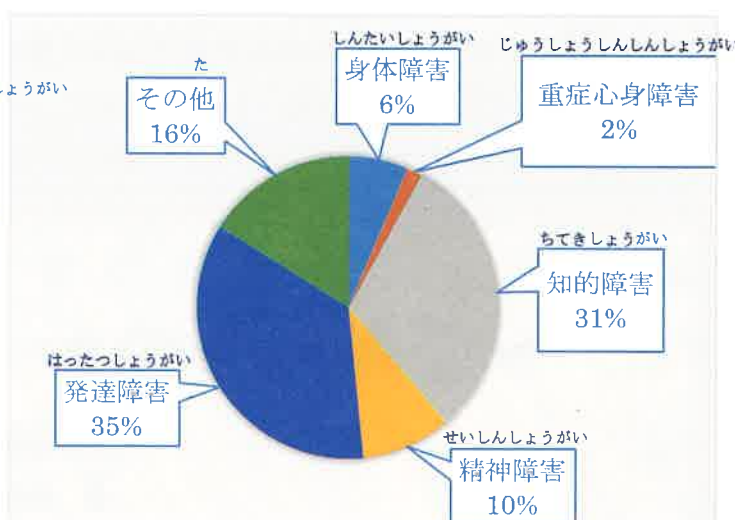
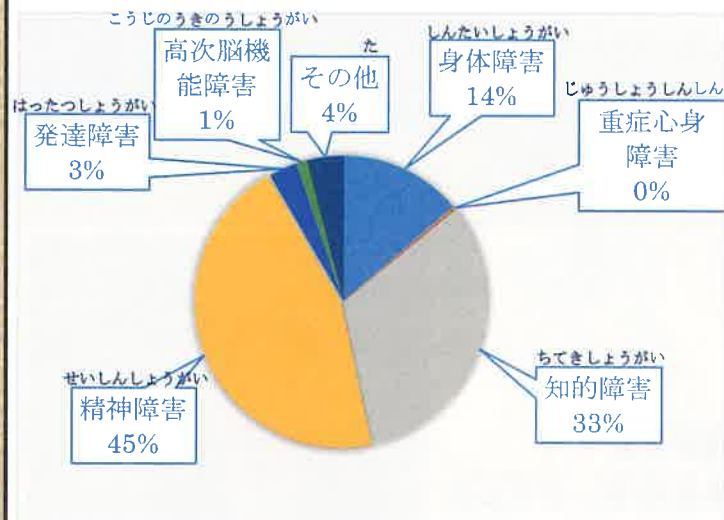
結びに、地域の皆さんが地域の生活課題を「我が事」として考え、人と人とのつながりを大切にしながら、立場を超えて「丸ごと」つながる『地域共生社会』の実現を目指すとともに、健康の維持増進を目的とした『予防』を加えて、健康福祉行政の推進に努めてまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年度リーベル活動報告

○相談支援を利用されている障害者等の実人数と内訳(基幹相談のみ)

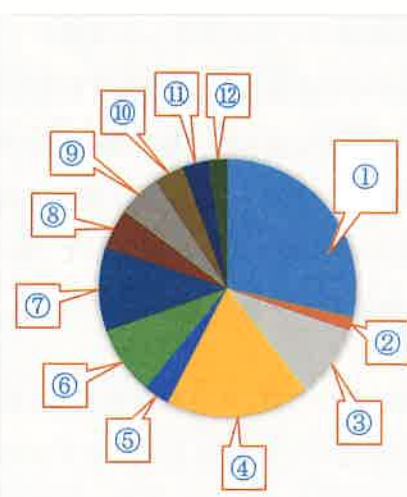
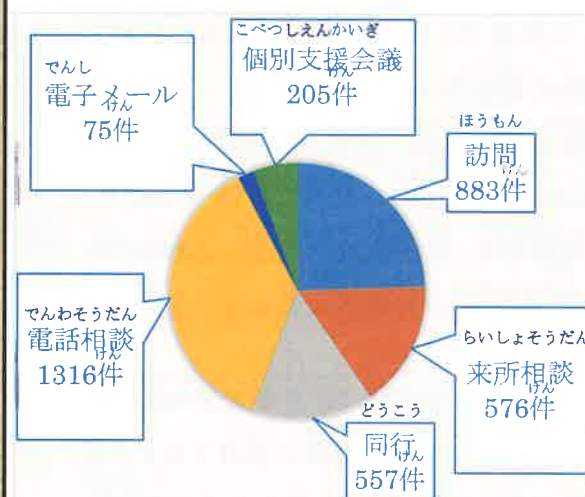
《障害者》 実人数：293名

《障害児》 実人数：60名



○支援方法 (全3,612件)

○支援内容 (全3,061件)



- ① 福祉サービス(877件)
- ② 障害や病状の理解(48件)
- ③ 医療・健康(287件)
- ④ 不安の解消・情緒安定(553件)
- ⑤ 保健・教育(101件)
- ⑥ 家族関係・人間関係(264件)
- ⑦ 家計・経済(320件)
- ⑧ 生活技術(157件)
- ⑨ 就労(164件)
- ⑩ 社会参加・余暇活動(116件)
- ⑪ 権利擁護(99件)
- ⑫ その他(77件)

<<相談について>>

実人数については、前年度とほぼ横ばいになっています。

障害の内訳では、者では、前年度より精神障害の方が少し増え、児童では知的障害が減少し、発達障害やその他(未診断など)が増えています。

支援内容では、例年福祉サービスが一番多くなっていますが、家族関係・人間関係や家計相談が前年度より増えてきています。

精神障害のある母親の家庭支援が目立ってきています。家族内の人間関係や経済的な相談、成年後見制度の相談と、1人の相談者から複数の長期的な支援のケースが増えてきています。他、債務支援が必要なケースも増加しており、防止する対策も必要と感じています。又、数値的には、少数派ではありますが、引きこもりのケースも少しずつ増えてきており、多機関と連携しながら関わり方を模索しています。

今年度も、自己研鑽を忘れずに、丁寧な支援に努めて行きたいと思えます。

せんたいけんしゅうかい かいさい

リーベルネットワーク全体研修会を開催しました

5月17日、令和元年度リーベルネットワーク全体研修会を開催しました。

今回は、毎日新聞論説委員、社会保障審議会障害者部会委員、東京大学全学自由研究ゼミナール「障害者のリアルに迫る」担当非常勤講師、そして知的・自閉症の障害者の親でもある、野澤和弘氏をお招きし「障害者の権利擁護～合理的配慮・意思決定支援～」について、講演を頂きました。参加者は、44事業所、8校の学校を合わせて、77名の参加。野澤氏からは、大学の授業、研修会、親子関係での実体験を通して、具体的にお話を頂きました。

<内容について>

「合理的配慮」障害特性に応じて一般の人とは別の配慮をすることで公平になる。

建設的な対話から、折り合いが付く対応に繋がったり、無料コミュニケーションアプリのUDトークの開発に繋がった紹介。

障害者への支援が社会を優しくする。

「意思決定支援」本人の意思をどう支援していくのか。

本人の最善の利益をどう見つけていくのか。

本人のもやもやとした意識を「無意識の海」と名付けられ、それを豊かにする。情報、体験などの五感を通して支援者との信頼関係や関わり方の深さで豊かにする。

本人中心主義について、利用計画について多く使われる「安定・継続」への疑問を提示。

支援される受動的な立場から、能動的に人生を楽しむことを目指す。「挑戦・冒険」逸脱があってもいいじゃないかとエールを頂きました。

印象深かったのは、子どもとの電車でのエピソード。電車内で突然子どもから頬を噛まれた。なぜ？どうして？直ぐに3つの仮説が浮かぶが、すっきりしない。4年後4つ目の仮説が浮かび、少し納得できたと言うもの。本人への探求心=愛情があるからこそ、4年目に仮説が浮かんだ。本人に深い関心を持ち、探求する。まさに、対人援助業務の基本と再認識でき、相談者の顔が浮かび、もっともっと知りたい欲求に駆られました。新年度、仕事へ取り組むパワーを頂いた研修会になりました。

最後に、野澤氏の講演前に、リーベルから、課題解決型部会設置に向けた取り組み、ペアレント・トレーニングについての2点の報告を行いました。今後の動きについては、報告会などを設けて行きたいと思えます。又、課題解決型部会の取り組みについては、資料をホームページにアップしています。



ペアレント・トレーニング入門講座開催報告

3月8日(金)、有明ペアレント・トレーニング研究会から言語聴覚士：夏目尚氏(障害者支援施設あけぼの苑 施設長)を講師に迎え、『ペアレント・トレーニング入門講座』を開催しました。当日は、保護者、放課後等デイサービス事業所、相談支援事業所から27名の参加でした。

ペアレント・トレーニングとは、ADHDのお子さんを育てる親御さんのために開発されたプログラムで、行動分析学を基本に、親(大人)の関わり方を変えることで、子どもの行動を変え、注目の力、ほめる力を武器に、親子関係の悪循環を良い環境に変えていくものです。

講座内容をぎゅっと凝縮すると、『子どもの好ましい行動を見逃さず、すかさずほめる。100%の行動ではなくても25%でほめる。ほめることで子どもの行動を好ましい行動に変えていく』です。例えば、ご飯の時間になってもゲームを止めずにいる好ましくない行動に注目するのではなく、子どもはそのままにして家族はご飯を食べる。子どもがゲームから目をそらして家族の方を見た時に、「こっちをみてくれたね〜」と好ましい行動を褒める。席についてご飯を食べてくれると100%の出来ですが、そうではなくて少しでも好ましい行動を取れた行動に注目してほめるということです。

親御さんからの感想です。

「ほめることの大事さ、小さなことでもほめる25%ルールはとても良いと思いました。(中略)ほめることが不足していたと強く思いました。今後は子供の小さな良い行動からほめていきたいと思えます。」
「ついつい100%できることを待ってしまい、怒ることが多かった。25%ルールを取り入れてみようと思えます。」

障害の有無にかかわらず、子育て、夫婦関係、職場でも役立つわかりやすい講座でした。家庭内でも教育現場でも、是非、取り入れてもらいたい内容です。

この講座開催のきっかけは、発達障害と診断されたお子さんへの対応を学びたいというお母さんからの相談でした。八女地区にはなかったペアレント・トレーニング。今年度は、親御さん向けのペアレント・トレーニング、障害児サービス事業スタッフ向けのティーチャーズ・トレーニングを開催していきます。



市町村の福祉窓口担当者のご紹介です



今年度もよろしく
お祈りします!

お知らせ

しょうがいじ おや 障害児をもつ親のサロン

～リーベル おしゃべり箱～

こんねんど しょうがいじ おや かた は ひら
今年度も障害児をもつ親の語らいの場を開きます。

さんか じゆう ぎがる た よ り ください
参加は自由です。お気軽にお立ち寄りください。

かいじょう
会場：リーベル 2F 10:00～12:00

にちじ 5月9日(木) 11月14日(木)

6月13日(木) 12月12日(木)

7月11日(木) 1月9日(木)

8月8日(木) 2月13日(木)

9月12日(木) 3月12日(木)

10月10日(木)

★10月・2月は講話を予定

ごうし いっぱんしやうじん
講師：一般社団法人わ・Wa・わ
理事長 岸 良至 氏

と あ さき
《問い合わせ先》

たんどう や の うしじま
リーベル(担当：矢野・牛嶋)

☎0943-22-2610

リーベルのホームページに福祉ブック Web版
やめ ひろかわ ちくご ふくしじぎょうしよ じょうほう けいさい
(八女・広川・筑後の福祉事業所の情報)を掲載
しています。是非ご活用ください！ 事業所の
ないよう へんこう ばあい にゆうしよ
内容が変更になった場合や入所・グループホー
ムに空きが出た場合は、リーベルまでご連絡下
さい。

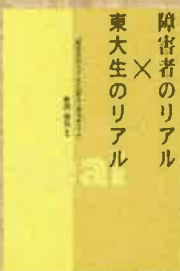
ぶんけんしやうかい

～文献紹介～

※①②ともに、出版社：ぶどう社

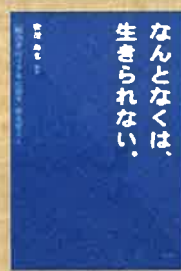
著者名：野澤和弘・「障害者のリアルにせまるゼミ」

① 『障害者のリアル×東大生のリアル』



のざわかずひろ しょうがいふくし と どうだいせい
野澤和弘が障害福祉のリアルを問いかけ、東大生
たち しょうがいじや て あい じぶんたち おくぶか こんどん
達が障害者に会い、自分たちの奥深くにある混沌
(リアル)と向き合っていく。
しょうがい い じぶん こた な
障害とは、生きるとは、自分とは・・・答え無き
と 問いに挑む。

② 『なんとなくは、生きられない。』



しょうがいじや と う
『障害者のリアル×東
だいせい
大生のリアル』のその後を
えが 描く・・・。

『リーベル』の想い

リーベルは、現在、私を含めて10名の職員体制となりま
した(内1名は育休中)。リーベルの職員は、個々が必要と
される専門的なスキルと経験を持ち合わせていると自負しな
がらも、より一層の研鑽と努力を重ねていく所存です。これか
らも職員同士連携しながら、この八女の地が、障がいの有無
に関係なく、一人ひとりがかけがえのない個人として尊重さ
れ、安心して暮らせる『共生のまち』となるべく、皆様の様々
な不安や困りことに寄り添っていきたくと思います。

これからどうぞよろしくお願いたします。

センター長 大塚 博嗣



へんしゅうこうき

～編集後記～

わかば わた かぜ きも きせつ
若葉を渡る風が、気持ちのよい季節になりました。平成から令和に変わり、初めての通信の発行となりました。年号が
変わる瞬間を体験し、また新たな気持ちで頑張っていきたいと思います。今後も、研修会などを企画して行きますので、
皆さんの参加をお待ちしています。(夕)